

浮いて待て！

7月12日（金）、4・5・6年生を対象に、群馬水辺安全協会の皆様を講師にお招きして、水難事故防止教室を行いました。

はじめに、ライフジャケットの必要性についてお話を聞き、実際に着用して、水に浮く体験をしました。続いて、救助を待つときの訓練も行いました。

次に、ペットボトルで浮きの体勢を保つ訓練を行い、最後に、何も持たずに浮きの体勢を保つ訓練を行いました。

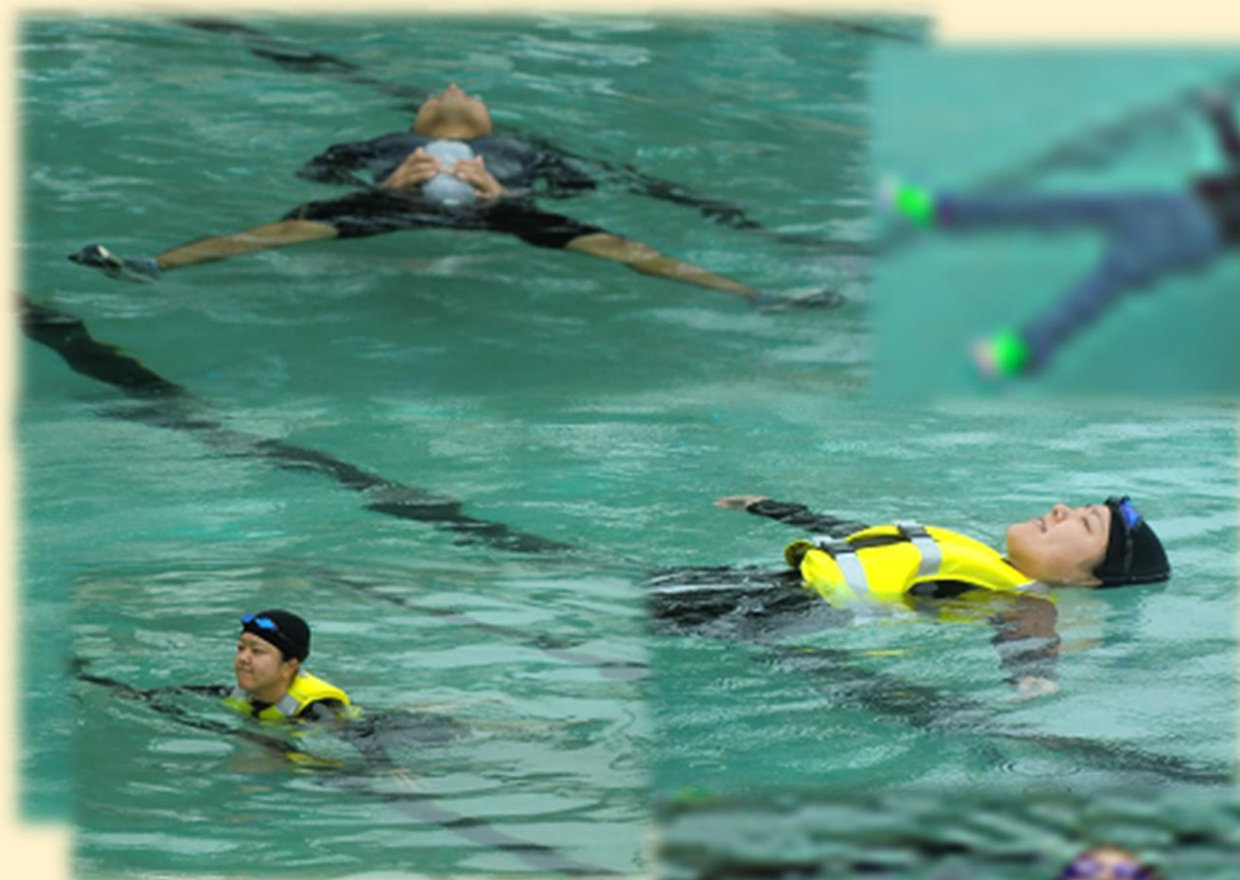
さすがに5・6年生は、昨年度・一昨年度の経験を生かして、さらに上達した姿を見せてくれました。

人間の体は、浮いたときに全体の2%程度しか水面に出ないようです。その2%を鼻と口に頼り、浮き続けることができるということです。ですから、いかにライフジャケットが命を守る道具として有効かを、実体験できた児童は、そのことを身をもって感じることができました。



水難学会
The Society of Water Rescue and Survival Insects
Instructor
指導員





子どもたちの安全管理 知っておきたい水辺の現実

1 目を離れた「一瞬」に事故は起きる

「浅い場所ならおぼれない」「泳げれば大丈夫」そう思っていませんか？
しかし、浅い場所や波や流れのない場所でも人は溺れます。
溺れのメカニズムは、パニックになっていつも通りの呼吸ができないことが原因です。過呼吸になった呼吸はすぐに落ち着くことはありません。
水中で過呼吸になると気道に水が入ったまま吐き出せず、やがて心肺停止になります。

2 「人間は水に浮く」を過信しない

人間の身体は、息を大きく吸ったときには、淡水で2%、海水で5%しか浮きません。息がしっかりできなければ泳げる人でも沈みます。
また、小さなお子さんは重心が高いうえ、筋力が弱いため水の力で転倒しやすく浅瀬でもパニックになります。大人が水に溺れるメカニズムを理解し、ライフジャケットを準備することで事故を防ぐことができます。

3 海や川のしくみを知る

海や川などの水辺は、子どもたちに発見や喜びを与えてくれる最高の遊び場です。しかし、多くの危険が潜んでいることも忘れてはいけません。
海では「離岸流や高波」、川では「流れや深さの急激な変化」など・・・
大人が水辺の危険について正しい知識を身につけて、ライフジャケットを正しく着用させることで、子どもの安全を守ることができます。

知っておきたい安全への第一歩！

子ども用ライフジャケットの選び方

子どもを水辺で安全に遊ばせるには、ライフジャケット着用が大切です。
ポイントをしっかり押さえた選択をし、正しく着用させましょう。

☑ 固型式を推奨

炭酸ガスを膨張させる「膨張式」は子どもには作動が難しい場合も。発泡プラスチックなどの浮力材入りの固型式なら安心。

☑ 目立つ色がいい

水辺では発見しやすいオレンジや黄色などの目立つ色がおすすめ。

☑ 股下ベルトがある

波や水流の影響で脱げることがないように股下ベルトは必須。

☑ 頭部を守るピローが付いている

落水時に頭部の浮力を補助し、保護にも役立つ。気道の確保に有効。

☑ 子どもの成長や年齢に合わせて最適なものを選ぶ

年齢や体重に合わないサイズを選んでしまうと、万が一のときに浮力が足りず浮かばない、ということも。子どもの成長に合わせて、必ず身体に合ったサイズを選びましょう。



【前面】



【後面】

海水浴や川遊びなどで子どもの命を守るライフジャケット。十分な浮力があり、股下ベルトやピロー、背面上部のレスキューハンドル（落水時に掴んで引っ張る）、ホイッスルなどが付いているものを選択したい。



上記資料は、
一般社団法人 吉川慎之介記念基金 HP 及び
子ども安全管理士講座資料を参照しています

ライフジャケット教室が 子どもたちの未来をつなぎます!!



令和6年4月から群馬県教育委員会ライフジャケットレンタルステーションが開設されました。レンタルステーションの開設で、群馬県のライフジャケット教育が進められる環境が整いました。

このライフジャケットは、私たちと一緒に活動しているライジャケサントこと「森重裕二さん*」からの寄贈を受けたものです。

開設に先立ち、昨年の一年間は私たちの団体がお預かりして、高崎、前橋、伊勢崎の小学校 延べ11校 1,287名の児童とライフジャケット体験を通じて、水難事故予防について学びました。

森重裕二氏の著書 絵本「かっぱのふうちゃん
ライフジャケットでスイスイ」



森重 裕二
「子どもたちにライジャケを！」代表
香川県在住
庵治石細目松原等石材店三代目
元教師で水辺安全の活動を続けている。
絵本「かっぱのふうちゃん」の著者

【ライフジャケットの効果】

- ① 水に浮く感覚を体感できる。(泳法の学習につながる。)
- ② 水慣れに有効である。(水泳が苦手な児童の見学者が減る。)
- ③ 教員の負担軽減につながる。(安全対策)
- ④ 水難事故を防ぐための準備や対処法を体験学習できる。

是非【ライフジャケット教室】を体験してみませんか!!

【指導内容】※事前打ち合わせをしてご要望に対応します。

- ① 正しい着用法 (注意するポイントや危険について)
- ② いろいろな浮き方 (背浮き、HELP 姿勢、グループハドルなど)
- ③ いろいろな移動方法 (スーリング、エレナリ)
- ④ 災害時の対処方法
- ⑤ いのちを守る着衣泳「背浮きでういてまで」の実践 など

指導員の派遣を希望される場合は下記メールにてご連絡ください。

指導員の派遣は「有償」ですが、県のライフジャケットが借用できない場合でも、関連団体から借用し、ライフジャケットを持参して対応します。

※お支払いいただく費用は、今後のライフジャケットの整備に役立ちます。

前橋市水難事故予防自主研究グループが作成した事前学習動画
ホームルームの時間で視聴できるよう5分程度で作成しています。



群馬水辺安全協会について

水辺の事故を防ぐために普及啓発活動を行っている団体です。

学校授業や出前講座などにおいては「命を守る着衣泳」教室を行っています。

「ういてまで」をキーワードとして、背浮きを中心とした水難事故への対処法を普及してきました。しかし、近年では「ういてまで」だけでは大切な命を守ることはできない」ことを痛感し、ライフジャケットの普及啓発活動に力を入れています。

Facebook



群馬水辺安全協会 代表 大手貴史

E-mail : gunma.mizubeanzen@gmail.com

私たちは「子どもたちにライジャケを！」の活動を推進しています。